

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書8章40-42、49-56節＞

1 (40-48) 長血の女の出来事が途中で起こったことが持つ二つの意味。

この話は長血の女の癒しの出来事を途中に挟んでいます。その出来事は、死にかけている娘を持つ会堂長にとっては二つの意味を持ったことでしょう。イエス様が娘の所に着く時間が遅れることへの焦りと、イエス様に対する娘を治して下さることへの確信です。

2 (49-53) 人の言葉とキリストの言葉、どちらを信じるか？

そこに娘が死んだとの知らせが届きました。使いの人はさらに気を回して、「この上、先生を煩わすことはありません」と告げました。しかし、これは余計な言葉でした。イエス様は死を打ち破られたからです。同じ姿はイエス様をあざ笑った「泣き女」の言動にも見られます(53)。神様がなさること、神様ならできることを、私たちも人間の常識から判断して否定し、あざ笑い、起こらないようにしてしまっただけです。この時、イエス様はすぐに、「恐れることはない。ただ信じなさい。そうすれば、娘は救われる」と会堂長に言われました。会堂長はイエス様の言葉を信じました。1の出来事が意味を持ったのです。しかしこれを読んで、「経験できたから信じられたのだ」と思うなら、まだ思いは自分自身、人間に向かっています。そうではなく、これを読んで今目を向けるべきはイエス様です。イエス様によってご自身を示された神様です。自分を見つめて生きることから、このイエス様、神様を見つめて生きる者となる、それが信仰者となるということです。幸いなり！

3 (54-56) 「起きなさい」 — 復活によって目覚める私たちへの言葉！

「起きなさい」、このイエス様の呼びかけによって娘は生き返りました。この言葉は私たちにも関係しています。葬儀の度に申します、「死による愛する者との別れは辛い、それは復活して目覚めて起き上がるときまでの一時の別れだ」と。娘はイエス様によって生き返ることができました。驚くべき奇跡です。しかしこの娘もいずれ死にます。しかし、イエス様の十字架の死によって私たちの罪が赦され、復活が与えられたのです。「起きなさい」で私たちは復活の約束を思い喜ぶのです。